

「語用」か「文法」か
—張英(2000)の議論の再検討—

井上 優

キーワード：怎么样、吧、知道了、文の述べ方の選択基準、場の役割

要旨

張英(2000)は、日本の中国語教材に「中国語らしくない表現」が見られることを指摘している。本論では、その中から、①“怎么样？”（どう？）を用いた疑問文、②応答表現としての“知道了”（わかりました）、③文末助詞“吧”を用いた命令文、という三つの表現の使われ方の不自然さを取り上げ、その背景に次の二つのことが関与していることを述べる。①中国語では「話し手の認識」を基準として文の述べ方が選択されるが、日本語では「現実世界」や「聞き手の認識」を基準として文の述べ方が選択される。②中国語は「場の役割に見合った発話をせよ」という語用論的な制約が会話参加者に強く課されるが、日本語はそうではない。

1. はじめに

張英(2000)は、日本の中国語教材の会話文に、日本語の影響と見られる「中国語らしくない表現」が見られることを指摘し、その不自然さについて、「中国語のコミュニケーション様式と文化的背景」という観点から説明を加えた論文である。表現の不自然さに関する指摘と説明は、中国語母語話者の自然な感覚に即したものであり、それぞれ興味深いものであるが、言語学的な、あるいは日中対照の観点からの分析がなされていないため、日本語を母語とする中国語学習者にはわかりにくいところがある。

本論では、張英(2000)が指摘する問題の中から、①“怎么样？”（どう？）を用いた疑問文、②応答表現としての“知道了”、③文末助詞“吧”を用いた命令文、という三つの表現の使われ方の不自然さを取り上げ、それぞれがどのような言語学的な問題を内包しているのか——「コミュニケーション様式」という語用論的な問題なのか、あるいは文法論的・意味論的な問題なのか——について検討する。第2節では①、第3節では②と③の問題をとりあげる。

2. “怎么样？”（どう？）を用いた疑問文

まず取り上げるのは、次の会話である。Aが「最近体調があまりよくない」と言った

のを聞いたBが、「え（いや）、それはいけない！」と驚き、Aのことを心配して病院に行くよう助言・忠告するという場面である。

(1) A：最近我感到身体有点不舒服。

(最近体調があまりよくないんだ。)

B：那么 a, 你到医院找医生看一看, 怎么样? b

(意図した意味：じゃ、病院に行って診てもらったらどう?)

(三浦昭一『中国語入門』同学社、1997年)

(张英 2000:52、一部改変。日本語訳井上)

(2)は、(1)のBの発話に逐語訳を加えたものである。逐語訳からもわかるように、この文は、「じゃ、病院に行って診てもらったらどう?」という日本語文を念頭に置いたものと推察される。

(2) 那么, 你 到 医院 找 医生 看一看, 怎么样?

それでは あなた 行く 病院 訪れる 医師 ちょっと見る どう

张英(2000)は、(1)におけるBの発話の不自然さについて、次のように述べている。

(3) 中国人のコミュニケーションの習慣からすると、もし友人が体調がよくないということを聞いたら、通常は友人を気づかう口調で彼に意見を述べるか、単刀直入に病院に行くよう勧めるかするだろう。例：“是吗？你应该去医院看看！”（え、そうなの？ 病院に行って診てもらったほうがいいよ！）、“是吗？快去医院看看吧！”（え、そうなの？ 早く病院に行って診てもらいなよ！）。特に近い間柄であれば、気をもんだ口調で相手を問いつめるだろう。例：“是吗？你怎么不去医院看看？”（え、そうなの？ なぜ病院に行って診てもらわないの？）。対話中の“那么，你到医院找医生看一看，怎么样？”は、相手を病院に行かせるという意味だが、文の語感と表出される感情にはいささか違和感がある。まず、文頭で弁論文体〔井上注：原文では“论辩语体”〕の“那么 nàme”（それでは）を用いており、“公事公办”（公の事は公の事を処理する原則に従って処理し私情にとらわれない）という印象を与える。次に、相手に病院に行くよう意見するのに、“怎么样 zěnmeyàng?”（どう？）を用いるのは、相手に責任を負わせるという印象を与える。それゆえ、文全体が友人に対する気づかいや思いやりというニュアンスにならない。

(张英 2000:52、原文中国語、日本語訳井上、ローマ字表記追加)

まず、(1)の下線部 a “那么” の不自然さについて検討する。(3)の説明にあるように、張英(2000)はこの問題を文体的な問題と見ており、それは部分的には正しい。しかし、(1)の場面で“那么”が不自然な直接の原因は、接続表現としての“那么”が、日本語の「それでは」と同じく、「それまでの話の流れを検討したうえで結論を述べる」という意味を表すことにある。(1)の場面は、BがAの発話に対して「え (いや)、それはいけない！」と驚き、Aのことを心配して病院に行くよう助言・忠告する場面である。しかし、“那么”を用いると、Aの発話内容について検討した結果を述べるために「それでは」と言っていることになり、「え (いや)」という気持ちをともなう発話にならない。これが、(3)の説明にある“公事公办”というニュアンスの具体的な内容である。相手の発話に驚き、心配して「え (いや)、じゃ」と続ける場合は、“那么”ではなく、“那 nà”を用いる必要がある。

次に、(1)の下線部 b “你到医院找医生看一看，怎么样？” (= (2)) の不自然さについて検討する。この問題に関して(3)で述べられていることは、要するに「聞き手の判断を待つことを表す“怎么样？”(どう?)を用いた文には、聞き手のことを心配する気持ちが感じられない」ということである。実際、“你到医院找医生看一看，怎么样？”は、日本語文(4)と同じく、「…するのもいいかもしれない。どう思う？」という気持ちで聞き手に意見を求める文であり、「…したほうがよい」、「…すべきだ」という気持ちで聞き手に病院に行くよう助言・忠告する文にならない。

(4) 病院に行って診てもらうのはどう？

(病院に行って診てもらうのもいいかもしれない。どう思う?)

相手に対する助言・忠告の気持ちを表すには、(3)の説明であげられた中国語文(下線部)を用いることが必要である。

(5) a. 是吗？ 你 应该 去 医院 看看！

そうなの？ あなた ほうがよい 行く 病院 ちょっと見る

(え、そうなの？ 病院に行って診てもらったほうがよいよ！)

b. 是吗？ 快 去 医院 看看 吧！

そうなの？ 早く 行く 病院 ちょっと見る 命令

(え、そうなの？ 早く病院に行って診てもらいなさいよ！)

c. 是吗？ 你 怎么 不去 医院 看看？

そうなの？ あなた なぜ 行かない 病院 ちょっと見る

(え、そうなの？ なぜ病院に行って診てもらわないの?)

日本語でも、(6a)に示したように、(1)の場面で「病院に行って診てもらうのはどう？」

と言うと、聞き手のことを心配していることにならず、不自然である。(3)の説明にある「友人が体調がよくないということを知ったら、通常は友人を気づかう口調で彼に意見を述べるか、単刀直入に病院に行くよう勧めるかする」ということは、日本人も中国人も同じだからである。

しかし、同じく「どう？」を用いた形式でも、(6b)の「…したらどう？」は、「単刀直入」というわけではないが、聞き手に対して「…したほうがいいのではないか？」という気持ちで助言・忠告する表現になる（「病院に行って診てもらってはどうか？」も同様だが、「…したらどう？」よりも語気が弱い。「どう？」は“怎么样？”と同じく聞き手の判断を待つことを表すが、日本語では「どう？」を含む文が助言・忠告の表現になりうるのである。

(6)（「体調がよくない」と言う聞き手のことを心配して）

a. ??病院に行って診てもらうのはどう？

（それもいいかもしれない。どう思う？）

b. 病院に行って診てもらったらどう？

（そのほうがいいのではないか？）

「…したらどう？」は、(6b)のように、「そうしたほうがいいのではないか？」と聞き手に考えを改めるよう助言する気持ちで用いられることもあれば、(7b)のように、「そうするのがいいのではないか？」と提案する気持ちで用いられることもある。また、(8b)のように、「そうすべきだ（なぜそうしないのか？）」という非難の気持ちで用いられることもある（この場合「どうなの？」とも言える）。

(7)（いい方法を思いついて）

a. だったら、田中さんに相談してみるのはどう？

（それもいいかもしれない。どう思う？）

b. だったら、田中さんに相談してみたらどう？

（そうするのがいいのではないか？）

(8)（教員らしくないことばかりする夫にあきれた様子で）

a. ??あなた、少しは大学の教員らしくするのはどう？

（それもいいかもしれない。どう思う？）

b. あなた、少しは大学の教員らしくしたらどう（なの）？

（そうすべきではないか？ なぜそうしないのか？）

このように、中国語では“怎么样？”（どう？）を用いた疑問文が意見求めの表現にしかならないのに対し、日本語では「どう？」を用いた疑問文が忠告・勧告の表現にな

りうる。これは、疑問文と確認文の使い分けに見られる日本語と中国語のずれと軌を一にする現象である。

- (9) (前を歩いている人が転倒した。「大丈夫であってほしい」という気持ちで)
- a. 大丈夫ですか? [疑問文]
 - b. #不要紧 吗? [疑問文]
 大丈夫 か
 - c. #大丈夫でしょう? [確認文]
 - d. 不要紧 吧? [確認文]
 大丈夫 だろう

(9)は、話し手が「聞き手は大丈夫であってほしいが、現実にはどうかはわからない」という気持ちで、聞き手が大丈夫かどうかを確認する場面である。このような場合、日本語では、「現実にはどうかはわからない」として疑問文「大丈夫ですか?」を用いる。確認文「大丈夫でしょう?」を用いるのは、現実には「大丈夫だ」と判断される場合であり、(9)の場面で「大丈夫でしょう?」と言うと、話し手が一方的に「大丈夫だ」と決めつけて同意を求めることになり、不自然である。

これに対し、中国語では、(9)の場面にあっては「大丈夫であってほしい」として確認文“不要紧吧?”を用いる。疑問文“不要紧吗?”を用いるのは、「聞き手は大丈夫である」ということについて話し手が疑念を抱いている場合であり、「大丈夫であってほしい」と思っている以上は疑問文は用いられない。

これらのことは、(10)に示したように、疑問文と確認文の使い分けが、日本語では現実世界を基準になされるが、中国語では話し手の認識を基準としてなされるという形で説明できる(井上 2016)。

(10)

	話し手の認識	現実世界	日本語	中国語
I	Pかどうか 疑問	現実にはPか どうか不明	疑問文	疑問文
II	Pと信じる			確認文
III		現実にはPと 判断される	確認文	

(井上 2016 : 一部改変)

中国語では“怎么样？”（どう？）を用いた文が意見求めの表現にしかないのに対し、日本語では「どう？」を用いた文が忠告・勧告の表現になりうることも、これと同じように説明できる。すなわち、「話し手は『こうしたほうがよい／こうすべきだ』と思っているが、聞き手はどういう意向かわからない」という場面において、日本語では、「聞き手はどういう意向かわからない」として疑問文「…したらどう？」が用いられる（例(11a)）。話し手自身が「こうするのがよいかどうかかわからないが」という気持ちで相手に意見を求める場合は、「…するのはどう？」という疑問文が用いられるが、「話し手は『こうしたほうがよい／こうすべきだ』と思っているが、聞き手はどういう意向かわからない」という場合も、「…たらどう？」という疑問文が用いられる。提案的な意味を表す「ないか」（井上・黄 1996 で「誘導型真偽疑問文」と呼んだタイプ）も、疑問文ではあるが、「…たらどう？」と同じ気持ちで用いることができる（例(11b)）。

これに対し、中国語では、話し手が「こうしたほうがよい／こうすべきだ」と思っていれば、それを基準として、“吧”（しよう、して）などの形式が用いられる（例(11c)）。“怎么样？”（どう？）が用いられるのは、話し手自身が「こうするのがよいかどうかかわからないが」という気持ちで相手に意見を求める場合である。

- (11) (話し手は「無理しないで病院で診てもらおうほうがよい」と思っているが、聞き手はどういう意向かわからない)
- a. 無理しないで、病院で診てもらったらどう？
 - b. 無理しないで、病院で診てもらいませんか？
 - c. 不要 硬撑 着，赶快去 医院 看看吧。
禁止 無理する 持続 早く 行く 病院 見る 指示
 （無理しないで、早く病院に行って診てもらいなさいよ。）

木村・森山(1997:269) は、日本語と中国語の文の述べ方について、次のような見通しを述べている。

- (12) 中国語の場合、話し手の認識こそが〔文の述べ方を決める〕基準となるのに対し、日本語の場合、聞き手の認識を談話の内部で尊重しなければならない。

「話し手は『こうしたほうがよい／こうすべきだ』と思っているが、聞き手はどういう意向かわからない」という気持ちで疑問文が使える（日本語）、使えない（中国語）ということも、この見通しの中で位置づけられる。冒頭の(1)の下線部 b “你到医院找医生看一看，怎么样？”の不自然さは、コミュニケーション様式という語用論的な要因によるものではなく、「文の述べ方を決定する文法的な基準」という文法論的な要因によるものなのである。

3. 応答表現としての“知道了”、文末助詞“吧”を用いた命令文

次に取り上げるのは、次の(13)の下線部 a、b である。

(13) ((1)の続き。Aは患者。Cは医師)

C：请坐！你哪儿不舒服？

(お座りください。どこが具合が悪いですか？)

A：这个地方有点儿疼。

(ここが少し痛みます。)

C：心脏没什么问题，是伤风。你好好地休息吧！ a

(心臓は特に問題ありません。カゼです。ゆっくり休んでくださいね。)

A：知道了 b，大夫，谢谢您啦！

(わかりました。先生、ありがとうございます。)

(三浦昭一『中国語入門』同学社、1997年)

(張英 2000:52、日本語訳井上)

日本語訳からはわかりにくいですが、中国語の感覚では、(13)の下線部 a、b は、それぞれ医師の発話、患者の会話として不自然なものである。張英(2000)も次のように指摘している。

- (14) 患者が病院で診察を受ける際は、医師が自分の病気に対して信頼できる説明をし、また治療をしてくれることを期待している。医師は通常、患者の質問に答えるときは、多く肯定の語気を使用する。それゆえ、医師は“心脏没有什么问题，是伤风。你好好地休息就好了”（心臓は特に問題ありません。カゼです。ゆっくり休めば大丈夫）、あるいは“好好地休息，再吃点儿药就好了”（ゆっくり休んで薬を飲めば大丈夫）のように答えるべきである。“知道了”（わかりました）は、患者の医師に対する応答である。同じ状況では、中国人は通常“好”（承知しました）と言って答える。第一にことばが簡潔で、第二に比較的自然的である。）（張英 2000:52、原文中国語、日本語訳井上）

下線部 a “你好好地休息吧！” (=15) は、「よく休んでくださいね」に近いやわらかい指示であるが、これは(13)の場面における医師の発話としては不自然である。この場面では、(14)の指摘にあるように、“好好地休息就好了” (=16a)、“好好地休息，再吃点儿药就好了” (=16b) のように相手に説明する文を用いる必要がある。

(15) 你 好好地 休息 吧!

あなた よく 休む 命令

(ゆっくり休んでくださいね。)

(16) a. 你 好好地 休息 就 好了。

あなた よく 休む それで 大丈夫

(ゆっくり休めば大丈夫。)

b. 好好地 休息, 再 吃 点儿 药 就 好了。

よく 休む それから 食べる 少し 薬 それで 大丈夫

(ゆっくり休んで薬を飲めば大丈夫。)

しかし、日本語母語話者には、(14)の説明を実感をともなった形で理解することは難しい。「患者が病院で診察をしてもらうときは、医師が自分の病気に対して信頼できる説明をし、また治療をしてくれることを期待している」というのは日本人も中国人も同じはずだが、日本語では、(13)の場面で医師が患者に「ゆっくり休んでくださいね」と言うのは特に不自然ではないからである。

下線部 b についても、日本語では(13)の場面で患者が「わかりました」と言うのは完全に自然であるから、日本語母語話者にはなぜ同じ場面で“知道了”(わかりました)が不適切な発話になるのかがわかりにくい。同じ状況では通常“好”(承知しました)と答えるというのも、「ことばが簡潔で、第二に比較的的自然である」という説明だけではよくわからない。

結論を先取りして言えば、(14)で述べられていることは、一言で言えば、次のようなことである。

(17) 中国語においては、「その場の役割に見合った発話をせよ」という語用論的な制約が強く課される。(診察室という場にあっては、医師は医師らしい発話、患者は患者らしい発話をしなければならない。)

診察室という場においては、会話参加者は私的な会話をおこなうのではなく、「医師」と「患者」という公的な役割を担って会話をおこなう。(13)の場面においても、中国語では、医師と患者が次のような役割に見合った発話をするのが求められる。

(18) 医師：患者を診断する。また、患者に診断の結果を説明し、治療のための指示をおこなう。

患者：症状について説明する。また、医師から診断の結果を聞き、医師の指示に従う。

まず、下線部 b “知道了” (わかりました) が患者の発話として不自然なのは、応答表現としての“知道了”が「あなたの言うことは理解した」という意味の発話だからである。日本語の「わかりました」は「あなたの言うことに同意する」という意味で使えるが、中国語の“知道了”は「話はわかった」という意味にとどまる。(13)の場面では、医師は患者に「ゆっくり休めば大丈夫」ということを述べ、間接的にゆっくり休むよう指示している。それに対して「話はわかりました」ということを述べるだけでは、医師の指示に従うことにはならない。「この場で『患者』という役割を担う者として医師の指示に従う」という気持ちを表すには、相手の発言に同意することを表す“好” (承知した)、“好的” (承知した) を用いる必要がある。

(19) 好 6 a 同意・承諾を表す。よろしい。はい。

好, 那我就去! (はい、じゃあ私が行きましょう。)

劳驾, 找一下老李——好, 您等一下。(電話で) すみませんが、
李さんをお願いします——はい、ちょっとお待ちください。)

(20) 好的 (文頭に用い、同意などを表す)

好的, 就这么办吧! (よろしい、そうしよう)

((19)、(20)は『小学館中日辞典第3版』)

このように、(13)の場面における“知道了”の不自然さの背景には、①“知道了”が「話はわかった」という意味を表す (意味論的要因)、②中国語では「その場の役割に見合った発話をせよ」という制約が強く課される (語用論的要因) という二つのことが関わっているが、(13)の場面における下線部 a “你好好地休息吧!” の不自然さも、これと同じように説明できる。

(13)の場面で医師が“你好好地休息吧!” と言うのが不自然なのは、文末助詞“吧”が私的な会話で用いられる表現であり、「医師」と「患者」という公的役割を担ってなされる会話の中で用いる表現としてはふさわしくないからである。日本語では、医師が患者に「ゆっくり休んでくださいね」と言っても、医師でない人物が知人に「ゆっくり休んでくださいね」と言っても、親しみの気持ちが感じられる丁寧な指示というだけだが、中国語の“你好好地休息吧!” は、日本語で言えば「ゆっくり休んでね」、「ゆっくり休んでくださいな」と言うのに近く、場にそぐわない口調の発話になる。次の(21)のように、患者に対して「軽く考えるべきではない」という気持ちで説明する場合は、“应该” (したほうがよい、すべきだ)、“得” (しなければならない) を用いて患者に忠告を与えるが、(13)の場面では、患者は「休めば治る」という程度の症状であり、忠告を与える必要は特にない。その結果、医師は患者に「休めば大丈夫」ということを説明すればよいことになる。

- (21) 医生：这是检查的结果。你血压偏高。
(これは検査の結果です。血压がやや高いですね。)
病人：我怎么一点儿感觉都没有。
(自分では全然感じませんが。)
医生：现在还不是很厉害，不过你应该注意起来了。
(今はまだそれほどひどくないのですが、でも注意したほうがいいですよ。)
病人：注意些什么好呢？
(何に注意したらいいですか？)
医生：你得在饮食方面多注意，少吃油腻的东西。
(食生活について注意しなければなりません。脂っこいものはひかえめに。)
病人：好，我一定注意。
(はい、気をつけます。)
- (楊 2007:38-39)

このように、(13)の場面における下線部 a “你好好地休息吧！” の不自然さには、①文末助詞“吧”が私的な会話で用いられる表現である（文体的要因）、②中国語では「その場の役割に見合った発話をせよ」という制約が強く課される（語用論的要因）という二つのことが関わっている。

この例に限らず、日本語では「その場の役割に見合った発話をせよ」という制約が中国語ほど強くは課されず、「私的な発話」と「公的な発話」の区別が形式上は必ずしも明確ではない。次の(22)の文章で述べられているのも、薬局（食堂、タクシー）という場は「客は店員（運転手）に要望を述べ、店員（運転手）はそれに応える」という場であり、中国語では、客はそれに即して要望を述べればよいが、日本語においては、「店員（運転手）」と「客」という公的役割を担っての会話でも、知人どうしの会話でも、人に何か頼む場合は依頼表現が用いられる、ということである。

- (22) 食堂で料理を注文したり、水を求めたりする際、日本語では「ラーメンください」「お水ください」のように依頼の表現を常用する。駅で切符を買う場合も「東京まで指定席一枚お願いします」とやはり依頼する。タクシーに乗って「どちらまで？」と尋ねられると「三宮まで行ってください」或いは「三宮までお願いします」などここでも依頼の形で行き先を告げる。無論それ以外の様々な型——たとえば「ラーメンありますか」のような疑問型——の表現形式が用いられることも少なくないが、少なくとも依頼という形の表現形式がそうした状況に適する典型的な表現型の一つであることは疑いのないところである。

一方、中国語はどうかと言うと、右のような状況で依頼表現が用いられることは必ずしも一般的ではなく、事によっては不自然な印象を与えることさえ少なくない。中国語では、こうした場合、むしろ“我要一杯凉开水。”[私は湯ざましが一杯ほしい]や“我到三宫。”[私は三宮に行く]のように、欲求の表示や意思表示の表現を以て特定の行為の要求に当てるのが一般的であり、自然でもある。

無論、だからと言って、こうした欲求—意志表現が状況を選ばずに常に適切であるというわけではない。たとえば、客として訪れた家で“我要一杯凉开水。”と言うこと、或いは知り合いの運転手のタクシーにたまたま乗り合わせて“我到北京饭店。”[私は北京ホテルに行く]と言うことなどはきつく憚られる。そうした状況ではやはり日本語同様、“请给我倒一杯水。”[どうか水を一杯注いでください]、“请给我到北京饭店。”[北京ホテルまで運んでください]のような依頼表現が選ばれる。(木村 1987:65)

中国語において「その場の役割に見合った発話をせよ」という制約が強く課される背景には、「その場の役割を会話の基本的な枠組みとして利用して、会話をスムーズに展開させる」ということがある。日本語で「その場の役割に見合った発話をせよ」という制約が強く課されないのも、おそらくは、会話をスムーズに展開させることの重要性が相対的に低いためであろう。次の(23)の文章で述べられていることも、日本語では「客」と「店員」の会話であっても「ほしいものがあるかどうか」を確認することから始めるが、中国語では「客は店員に要望を述べ、店員はそれに応える」という役割に即した発話をすればよい、ということである。

- (23) 薬局に入って行って“有退烧药没有？”Yǒu tuìshāoyào méiyǒu? (解熱剤あります?)と言うと、相手は“有。”(ある)と答えるだけで一向に椅子から立ち上がろうとしないといったケースが間々あります。“你要吗?”(要りますか)と聞き返してくれれば、それこそ御の字で、間違っても「要るからこそ、あるかと聞いてるんじゃないか」などと怒ったりしてはいけません。

(略)「要る」なら「要る」と、最初から“我要退烧药。”[井上注：解熱剤をください(直訳は「解熱剤がほしい」)]のように言えばいいわけで、「ありますか」などと遠回しに言う方がいけないのです。確かに日本語では「解熱剤ありますか?」と言えば、言外に「ください」を意味する働きをもち得ますが、それはあくまでも日本語流のパフォーマンスであって、それがそのまま中国語に通用するものではないのです。(木村 2017:276)

4. おわりに

本論では、張英(2000)が指摘する「日本の中国語教科書の会話に見られる不自然な表現」の中から、①“怎么样?”(どう?)を用いた疑問文、②応答表現としての“知道了”(わかりました)、③文末助詞“吧”を用いた命令文、という三つの表現の使われ方の不自然さを取り上げ、いずれの現象も日本語と中国語の本質的な相違に関わるものであることを述べた。本論で述べたことは、「中国語のコミュニケーション様式と文化的背景」という観点からの説明を分析的に説明し直したものにすぎないが、誤用分析が対照研究のための重要なヒントになりうることは示しえたと思う。

本論で扱った問題に限らず、コミュニケーションの問題として説明されていることの中には、文法論的な観点からとらえなおすことができ、かつその方がノンネイティブにはわかりやすい説明になると思われるものが少なくない。コミュニケーション研究や言語教育に対して文法研究者が貢献できる部分の一つである。

参考文献

- 井上優 (2016)「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」『日本語文法研究のフロンティア』くろしお出版
- 井上優・黄麗華 (1996)「日本語と中国語の真偽疑問文」『国語学』184集、国語学会
- 木村英樹 (1987)「依頼表現の日中対照」『日本語学』6-10、明治書院
- 木村英樹 (2017)『中国語はじめの一步 [新版]』ちくま学芸文庫
- 木村英樹・森山卓郎 (1997)「聞き手情報配慮と文末形式」『日本語と中国語の対照研究 論文集』くろしお出版
- 楊凱榮 (2007)『語感を磨く中国語』NHK 出版
- 張英 (2000)「語用与文化 (語用と文化)」,《汉语学习》, 2000年第3期

付記

本論は以下の口頭発表の内容の一部を研究ノートでまとめたものである。

- ・井上優 (2018)「「文化」の問題か「文法」の問題か—張英(2000)の議論の再検討—」、シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア—談話研究・対照研究・習得研究を中心に—」、2018年1月27日、国立国語研究所